

## 道徳読み物資料の再検討<sup>†</sup>

戸崎 博文\*・古谷 初江\*\*・上原 秀一\*\*\*

那須塩原市立西小学校\*

小山市立豊田北小学校\*\*

宇都宮大学教育学部\*\*\*

道徳の時間で用いられる読み物資料4編について、内容を吟味した後に、読み物資料作成者が示した展開例とは異なる独自の展開案を示した。4編のうち3編は、文部科学省が平成23・24年に公表した小中学校の『道徳読み物資料集』から選んだ。1編は、詩人星野富弘の作品に基づく文溪堂『6年生の道徳』掲載の資料を選んだ。4編の読み物資料を再検討することによって、授業における既存の読み物資料の活用の際に、授業のねらいを変えたり資料を追加したりするといった工夫がどのように可能かを示そうとした。

キーワード： 道徳の時間、道徳読み物資料、「幸せコアラ」、「立志の人—山川健次郎—」、「違うんだよ、健司」、星野富弘

### はじめに

本稿は、小中学校の道徳の時間における読み物資料の活用の在り方を検討するために、具体的に4編の既存資料を取り上げ、その内容を吟味して独自の展開案を示すものである。

文部科学省『小学校読み物資料集』から高学年用の資料2編を、同『中学校読み物資料集』から中学校用の資料1編を、文溪堂『6年生の道徳』から小学校6年生用の資料1編を取り上げる。各章では、冒頭で資料の「あらすじ」や「内容」を紹介する。そして、資料作成者が示した展開例を引用する。その上で、独自に「資料の再検討」と「展開例の再検討」を行い、これに基づいて「再検討後の展開案」を示す。

なお、本論中、「1. 幸せコアラ」と「2. 立志の人—山川健次郎—」を戸崎が、「3. 違うんだよ、健司」と「4. 雨——星野富弘」を古谷が、それぞれ分担執筆した。

### 1. 幸せコアラ（小学校高学年）

#### あらすじ

「幸せコアラ」は、文部科学省『小学校道徳読み

<sup>†</sup> Hirobumi TOZAKI\*, Hatsue FURUYA\*\* and Shuichi UEHARA\*\*\*: Reconsideration of Some Readings for Moral Education.

\* Nishi Elementary School, Nasushiobara

\*\* Toyodakita Elementary School, Oyama

\*\*\* Faculty of Education, Utsunomiya University

物資料集』<sup>1)</sup>所収の小学校高学年向け読み物資料である。同書からの引用によってあらすじを示す。「本資料は、自分に送られたチェーンメールに戸惑う主人公が、身内の交通事故をきっかけにそれを親友に送ってしまったことから、相手を悲しめたことに思い悩むという内容である。」(146頁)

#### 資料作成者によるねらいと展開例

『小学校道徳読み物資料集』に掲載されたねらいと展開例は、次のとおりである。

ねらい：友達と互いに信頼し合い、友情を深め、仲良くしようとする心情を深める。

#### 展開例：

(1) 携帯電話の普及率について知る。(教師が客観的なデータを示す。臨場感をもたすために、教師が携帯電話を手にながら話すなど工夫する。扱うデータは可能な限り最新のものにする。)

(2) 資料「幸せコアラ」を読んで、話し合う。(主人公への共感と臨場感を高めるために、携帯電話を持たせながら心情を語らせたい。)

① 瑞葉から送られてきた「幸せコアラ」のメールを見た夏希は、どんなことを思っただろう。

・このメールをどうすればいいのだろう。

② 祖母の事故のことを聞いた後、何度も携

携帯電話に残されていた「幸せコアラ」の文字を読み返す夏希は、どんなことを考えていただろう。

- ・自分のせいで祖母がけがをしたのかもしれない。

③ 恵里からのメモを読んだ夏希は、どのようなことを思っただろう。

- ・取り返しがつかないほど恵里のことを傷つけてしまったんだ。

④ 恵里のメモを手にして父母のところに向かう夏希は、どんなことを考えていただろう。

- ・恵里に自分のしたことをきちんと話そう。

(3) 大切な友達の心を言葉や態度で傷つけてしまったことはないか話し合う。(友達の名前などは伏せるように指示しておく。携帯電話に限らず、不適切なメディアの扱いは人権問題にも繋がることなど、情報モラルについても触れる。)

(4) 心のノートの「友だちっていいよね」(48～51頁)を活用し、友達から学んだことなどについて考える。

#### 資料の再検討

(1) ねらい・内容項目を「友情・信頼」から「公德心」に変えてはどうか。

本資料は、もともと仲の良かった3人の女の子の関係がチェーンメールをきっかけに気まづくなり、最後は元のよい関係に戻そうとする話である。展開例では、ねらいは「友情・信頼」となっているが、この事例で友情について深く考えられるだろうか。

中心となるねらいは、「公德心」ではないか。チェーンメールを送ると、不特定多数の人に迷惑をかける。だから、送ってはいけないし、送ってしまった場合は謝罪の方法を考える。この資料は、チェーンメールを通して、社会の一員として守るべきことについて考えるのにより適している。内容項目は「2-(3) 友情・信頼」ではなく「4-(1) 公德心、規則尊重、権利・義務」に変えた方がよい。

(2) チェーンメールには根拠がないという立場をとり、深入りはしない。

本資料では、夏希にチェーンメールが送られてきた二日後に、祖母が交通事故に遭う。この内容から、チェーンメールと交通事故が関係していると本気で考える児童もいるだろう。ここは深入りせず、「チ

ェーンメールは、根拠の無いものである」という立場で話を進めていく。また、下記の総務省のホームページに掲載されている「チェーンメールに注意しよう」というページを使い、正確に理解させたい。

([http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/security/enduser/shogaku07.htm](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/security/enduser/shogaku07.htm))

#### 展開例の再検討

(1) 「自分ならどうするか」という視点で考えさせてはどうか。

高学年になると「チェーンメールを送るのはよくない」ということを最初から分かっている児童も多い。正しい意見が分かると、それ以上考えが出ず、広がりがなくなる。本来は、その場の状況を自分で判断し、適切な行動をとることが大切である。「自分ならどうするか」と考えることで、夏希に共感しながら自分を振り返って考えることができる。チェーンメールを送った心理も理解できるだろう。

まず、夏希がチェーンメールを送る場面である。メールのせいで祖母の事故が起きたのではないかとという恐れと、恵里に迷惑をかけるのではないかとという気持ちの間で心が揺れる。恵里にチェーンメールを送るかしばく葛藤した末、送信してしまう。ここで「自分ならどうするか」を考えさせたい。

最後の1行は「夏希は恵里のメモを手にしたまま静かに部屋を出て、父母のもとに向かった。」となっている。両親に相談するという解決法である。それも大切なことだが、「恵里に会って謝罪する」「3人で集まってチェーンメールをやめる約束をする」など他の行動も考えられる。そこで、最後の1行を削除し「自分ならどう行動するか」を考えさせたい。

#### 再検討後の展開案

(1) 携帯電話の普及率について知る。(教師から客観的なデータを示す。携帯電話を持つことが当たり前であるような扱いは避ける。)

(2) 資料「幸せコアラ」の前半(86ページ4行目まで)を読んで、話し合う。

① 瑞葉から送られてきた「幸せコアラ」のメールを見た夏希は、どんなことを思っただろう。

- ・このメールをどうすればいいのだろう。

② あなたが夏希だったら、だれかにメールを送りますか。(自分がその立場になったつもりで考えさせる。)

- ・いやな気持ちもあるけれど、自分のせいで祖母がけがをしたのかもしれないから、送る。

- ・相手に迷惑がかかるから送らない。
- (3) 資料の後半(86ページ5行目から)を読んで、話し合う。
- ① 恵里からのメモを読んだ夏希は、どのようなことを思っただろう。(恵里が、あえてメールではなくメモで気持ちを伝えてきたことの意味も考えさせる。)
- ・取り返しがつかないほど恵里のことを傷つけてしまったんだ。
- ② あなたが夏希だったら、この後どうしますか。
- ・恵里におばあちゃんの事故のことがこわくて、送ってしまったことを説明し、謝る。
  - ・瑞葉と恵里と3人で話し、今後チェーンメールをお互いに流さないように約束する。
  - ・親か先生に相談する。
- (4) チェーンメールについて詳しく知る。(総務省のホームページから引用し、チェーンメールの仕組みを理解させる。)

## 2. 立志の人—山川健次郎—(小学校高学年)

### あらすじ

「立志の人—山川健次郎—」は、文部科学省『小学校道徳読み物資料集』<sup>1)</sup>所収の小学校高学年向け読み物資料である。戊辰戦争で会津藩が敗れたため、藩士の健次郎は郷土を追われ、家族と離ればなれになる。留学生としてアメリカに渡る健次郎は、外国の技術の高さに驚かされ、苦勞して物理学を学ぶ。政府の方針により帰国の危機に陥るが、留学費用を援助してくれる支援者が現れる。支援者に「日本のためにつくす」と誓い、帰国後、物理学の分野で多くの人材を育てる。

### 資料作成者によるねらいと展開例

『小学校道徳読み物資料集』に掲載されたねらいと展開例は、次のとおりである。

ねらい：先人の努力を知り、郷土や国を愛そうとする心情を育てる。

#### 展開例：

- (1) 江戸末期の戊辰戦争について簡潔に説明し、資料への導入を図る。(地理・歴史的な学習を取り入れておく。)
- (2) 資料「立志の人—山川健次郎—」を読んで、話し合う。(児童に、健次郎の思いや努力を想像させて語らせたい。)
- ① 太平洋上で二隻の船が出合ったとき、健

次郎はどんなことを考えたのだろう。

- ・こんな広い海で出合えるなんて、すばらしい技術だ。
- ② 英語がわからず、日本人がいない中で、健次郎はどんな気持ちでいたのだろう。
- ・毎日が苦痛で、早く日本に帰りたい。
  - ・何とか努力して日本の役に立ちたい。
- ③ 帰国命令が出たとき、健次郎は友達にどんな気持ちを語ったのだろう。
- ・あきらめて帰国するしかないのか。
  - ・何とかして勉強を続けていきたい。
- ④ 帰国後、大学の先生になった健次郎は、どんな思いを抱きながら仕事をしていたのだろう。
- ・日本を支える多くの人材を育成したい。
- (3) これまでの学習の中で取り扱った、郷土や国のために力を尽くした人物を簡単に紹介し合い、その感想を話し合う。(偉大な先人のことを簡単に紹介し合って、自分とのかかわりを深めるようにする。)
- (4) 地域の優れた先人について教師の話聞く。(教師自身が日頃から地域に関心をもって資料を収集し、ねらいにふさわしい説話にする。)

### 資料の再検討

- (1) 「郷土を愛する心」から「国を愛する心」へと広がるか。

「小学校学習指導要領解説 道徳編」には、「郷土を愛する心が日本全体に開かれたものへと発展し、国を愛する心が児童の内面から自覚されることが大切である。」と書かれている。「郷土を愛する心」が広がり「国を愛する心」になるという解説である。

本資料の山川健次郎は、会津藩士だった。江戸時代末期、会津藩は薩摩藩・長州藩と戦い、降伏する。会津の人々は故郷を追われる。その後、薩摩藩・長州藩出身者を中心に、新政府が誕生する。健次郎にとって、新政府は敵である。そう考えると、「郷土(会津)を愛する心」が大きくなれば、「国(政府)を愛する心」は小さくなるのではないか。

- (2) 健次郎の「国を愛する心」は、支援者との関わりの中で育ったのではないか。

健次郎の「国を愛する心」は、どこから生まれたのか。本資料の原典『明治を生きた会津人 山川健

次郎の生涯』(星亮一著)<sup>2)</sup>にあたってみる。

まず、健次郎は、戊申戦争後、長州藩の奥平謙輔という人に預けられる。奥平は、敵であった会津藩出身の健次郎を親身になって世話してくれる。次に、薩摩藩の黒田清隆という人物が、アメリカへの留学生に推薦してくれる。黒田は、留学中も健次郎を励ましてくれる。さらに、留学先では中学校のハチソン校長が自ら個人指導をしてくれる。そして、帰国の危機に陥ったときには、ハンドマン夫人が勉学費を援助してくれる。

健次郎は、敵だった長州藩や薩摩藩の人々に世話になる中で二藩への敵対心がなくなり、ハンドマン夫人に日本のために尽くすと誓う過程で、「国を愛する心」が大きくなっていった。つまり、支援者との関わりで「国を愛する心」が育ったのではないか。

#### 展開例の再検討

(1) 資料を追加してはどうか。

本資料は、山川健次郎の生き方を追っている。生き方を4ページの資料で完全に理解するのは難しい。重要なポイントで資料を追加してはどうだろう。

健次郎が留学生に選ばれたのは、薩摩藩の黒田清隆の推薦である。『明治を生きた会津人 山川健次郎の生涯』に次の記述がある。

黒田清隆はしょっちゅう留学生に気合いを入れた。

「山川、お前は勉強せねばいかんぞ。会津人は苦労しているんだ。分かっているな」

健次郎にはとくに目をかけてくれた。

黒田はそういう人であった。

健次郎は黒田のいう意味が痛いほど分かっていた。

日本ための留学生ではあるが、会津の人々の期待を一身に担っての渡米でもあった。石にかじりついてでも勉強し、アメリカの大学を卒業して日本に帰り、日本のため会津のために、なにかをしなければならなかった。

この資料から、黒田の温かい対応で健次郎の薩摩藩への敵対心が弱まり、藩という枠をこえた「国を愛する心」へとつながっていったことが理解できる。

健次郎が幼少時代を過ごした会津には、下記の「什の掟」というものがあつた。

- 一、年長者の言ふことに背いてはなりませぬ
- 一、年長者にはお辞儀をしなければなりませぬ

- 一、虚言を言ふことはなりませぬ
  - 一、卑怯な振舞をしてはなりませぬ
  - 一、弱い者をいぢめてはなりませぬ
  - 一、戸外で物を食べてはなりませぬ
  - 一、戸外で婦人と言葉を交へてはなりませぬ
- ならぬことはならぬものです

会津の子どもたちが守るべききまりであり、破ると厳しい罰があたえられた。この中に「虚言を言ふことはなりませぬ」という項目がある。この項目と、ハンドマン夫人との約束をしっかりと守った健次郎の行動とは、深い関わりがあるのではないか。

さらに、先述の原典に下の記述がある。

大正三年三月、健次郎は東宮御学問所評議員に選ばれた。のちの昭和天皇の学問所である。

(中略)

「畏れおおいことです」

健次郎は感無量の気持ちで大任を受けた。(中略)

東宮御学問所評議員には、未来の天皇をどうご教育するか、という重大な責任があり、このことは会津は朝敵にあらずということの意味した。(中略)

鉦が差し出した冷や酒をうまそうに飲み、

「今日ほど嬉しいことはない。会津は朝敵ではないのだ」

といって杯をかさね、ぼろぼろと涙を流した。

(中略) 健次郎六十一歳のときであった。

この資料から、健次郎は晩年まで「国を愛する心」とともに「郷土(会津)を愛する心」も強くもち続けていたことが分かる。

3つの資料から、健次郎の「郷土を愛する心」「国を愛する心」についてより深く理解できるだろう。

(2)「会津への思いと日本への思いのどちらが大きかったか」という発問を入れてはどうか。

健次郎は会津藩の白虎隊士であり、戊辰戦争で薩摩藩・長州藩に敗れる。会津の人々は全国に散り散りになる。この時点では、「会津への思い」が強い。その後、敵であった薩摩藩・長州藩の支援を受けたり、アメリカに留学したりする中で、徐々に「日本への思い」が育つ。最終的には、ハンドマン夫人との約束通り、物理学の分野で日本に貢献する。「会津への思い」を持ち続けつつ「日本への思い」が強くなっていく。これらのことを理解させるには、要



所要所で上記の発問をすることが効果的だろう。

(3) 2時間扱いにしてはどうか。

江戸時代末期から明治時代にかけての複雑な国内情勢が、健次郎の郷土観・国家観と深く関わっている。時代背景をよく理解し、健次郎の「郷土を愛する心」「国を愛する心」をじっくり考えるには、2時間扱いにする方がよいだろう。

#### 再検討後の展開案

##### 第1時

(1) 戊辰戦争について説明し、資料への導入を図る。(地理・歴史的な学習を取り入れる。)

(2) 資料「立志の人—山川健次郎」を読んで、話し合う。

① 留学生に選ばれたときの健次郎は、「会津への思い」と「日本への思い」のどちらが強かったと思いますか。理由も考えよう。(「敵であった藩の人」は、長州藩の奥平謙輔であり、温かく受け入れてくれたことを理解させる。)

・会津への思い。会津の人が苦勞しているのに自分分は楽な生活をしているから。

② アメリカの生活が始まった頃の健次郎は、「会津への思い」と「日本への思い」のどちらが強かったと思いますか。理由も考えよう。(薩摩藩の黒田清隆の温情を受けたこと、中学校では校長自ら指導してくれたことを押さえる。)

・どちらも同じくらい。学問に励むことは、会津のためにも日本のためにもなるから。

##### 第2時

(3) 資料「立志の人—山川健次郎」を読んで、話し合う。(前時の続き)

③ ハンドマン夫人に援助してもらったときの健次郎は、「会津への思い」と「日本への思い」のどちらが強かったと思いますか。理由も考えよう。

・日本への思い。ハンドマン夫人に「日本のためにつくす」と誓っているから。

④ 健次郎は、ハンドマン夫人との約束を果たせたと思いますか。(「虚言を言ふことはなりませぬ」という教えと、夫人との約束を果たしたこととの関連を考えさせる。)

・多くの人材を育てたから、果たせたと思う。

・物理学を広めたから、果たせたと思う。

⑤ 健次郎の「会津への思い」は、どうなったと思いますか。(国に貢献しながらも、会津への

思いも持ち続けていたことを理解させる。)

・日本への思いより弱くなった。

・故郷だから、ずっともち続けていた。

(4) 優れた先人について、教師の話聞く。(健次郎と同じように、「郷土を愛する心」と「国を愛する心」の間で揺れる事例を紹介する。)

### 3. 違うんだよ、健司(中学校)

#### あらすじ

「違うんだよ、健司」は、文部科学省『中学校道徳読み物資料集』<sup>3)</sup>所収の中学校向け読み物資料である。同書からの引用によってあらすじを示す。「僕のクラスに転校してきた健司は、僕が耕平に対して適当に合わせていることに対して『そんなのが友達と言えるか。』と言う。生活が乱れがちになった耕平を心配して、健司は3人で親戚の家に遊びに行こうと誘う。そこで出会った健司の祖母とその友達の会話や様子を見て、3人は、友達とは本来どうあるべきかを知る。」

#### 資料作成者によるねらいと展開例

『中学校道徳読み物資料集』に掲載されたねらいと展開例は、次のとおりである。

ねらい：友情の尊さを理解し、友達を心から信頼して互いに励まし合い高め合おうとする道徳的実践意欲を育てる。

#### 展開例：

(1) 資料「違うんだよ、健司」を読んで、話し合う。(僕、耕平、健司の人物設定をはっきりさせておく必要がある。特に健司については、現実離れした「良い子」というイメージで読ませないように注意する。)

① ショッピングセンターで、健司に「そんなのが友だちと言えるのか。」と言われた僕は、どう思っただろう。

・別に普通じゃないか。

・堅いこと言うなよ。

・適当に合わせておいた方が気楽でいいんだよ。

② 「いや、ちょっとな。」と耕平に言われた僕は、どうしてそれ以上聞けなかったのだろう。

・聞いてはいけないことなのかな。

・あまりたいしたことはないだろう。

・耕平が言わないのなら、別にいいか。

③ 夏の大三角形を見ながら僕はどんなことを思っているだろう。

- ・健司のおかげで、本当の友達というものが分かった。
- ・適当な関係でいいと思っていた自分は、耕平にとっても健司にとっても本当の友達ではなかった。
- ・本当の友達っていいなあ。
- ・思うことを言える間柄っていいなあ。

(2) 心のノートの「太陽みたいにきらきら輝く生涯のたからもの」(52～55頁)を活用し、「友情」について考える。

#### 資料の再検討

(1) 登場人物の設定、内容に無理はないか。事実の説明が足りないのではないか。

ぼくと耕平は野球部。転入生の健司も野球部に入る。健司は、うわべだけでつきあう2人にはつきりともを言う。間違ったことを言わないし、悩んでいる友だちを親身になって心配するので、健司はとてもいい子に感じる。こんなにいい子はいらうか。指導書には「特に健司については、現実離れた『良い子』というイメージで読ませないように注意する。」という留意点がある。初めから登場人物の扱いに留意しなければならない設定には無理がある。

また、3人の中学生に対し3人のおばあさんたちが登場し、さらに夏の大三角形を見つけるというお話だ。「3」という数にこだわるのも分かるが、どれもうまく結びつかない。そして、健司のおばあさんの家に子どもだけで泊まりに行ったり、盆踊りに夢中になったり、おばあさんの会話を真剣に聞いたり、最後に夏の大三角形が輝いていたり、今の中学生にはあまり経験のない事実や抽象的な場面が多すぎる。

道徳で使う資料は、読み取れる詳しい事実があって、それが子どもたちの実態に合った身近なもののほうがよい。

(2) ねらいとする「友情」という価値を押しつけている内容ではないか。

後半におばあちゃんが3人出てきて、3人の関係を「隠し事一つもできない」仲と書いてある。また、「健司が大事なことを教えてくれた」ともある。このことは、表面だけのつきあいだけでなく、何でも言えるのが本当の友だちであるというねらいに、子どもたちを誘導する内容となっている。つまり、教師の

発問に対して、本当の友だちは何でも言える仲だというお手本のような答えを言わせるだけで満足する展開になりかねない。道徳の時間では、自分の生活を振り返り、考えを深め合わなければならない。この展開だと、筆者がどういう「つもり」で書いたのかは理解できるが、児童自身が自分の生活を振り返り考える材料とはならない。自分の生活を身近な材料としてこの資料をあえて読もうとするならば、次のような視点での展開も考えられるであろう。

#### 展開例の再検討

(1) ねらいを変えた展開にできないか。

この資料のキーワードは、実は「お節介」ではないか。お節介だと思いが、相手の気持ちを考えてやってあげる気持ちが健司の持っている思いやりであり、それは、友だちを思うやさしさである。「2-(3)友情・信頼」をねらいにするより、「2-(2)思いやり」にした展開にしてはどうか。

(2) 資料を前後半に分けて提示する展開にできないか。

複雑な内容設定のため、一気に資料の全てを提示せず、前半の「耕平が悩んでいることに気付いた2人が、悩み事を聞こうとするが、耕平は言わない」場面(2ページ目8行目)までを初めに提示する。悩みを相談できなかった耕平と何も聞けなかった僕と健司の気持ちを自分に置き換えて考えることで、悩み事を抱え生活まで変わってしまった友だちに対して、自分だったらどうするか、自分に何ができるのかなど、耕平の気持ちを考えた行動について考えさせる。また、後半部分を読んだ後、悩みを聞くという方法以外のやり方で、耕平を励ました僕と健司の気持ちに触れ、自分だったらどうするかを考えさせ、相手のことを考えて励まし合い、忠告し合える信頼関係を作っていくことの大切さを自覚させる。

(3) 「自分だったらどうするか。」という自分に置き換える発問はできるか。

実際の子どもの生活には、さまざまな出来事が起きる。道徳教育では、一人ひとりが現状を把握し、判断して、その場に応じた適切な行動がとれることを目指している。高学年や中学生になると、道徳の時間でのねらいをすぐに把握してしまうことも少なくない。正しいと思う意見が出ると、それ以上自分の考えを出さなくなるし、発展も少ない。「自分だったらどうするか」と自分に置き換えて考えることで、登場人物3人の友だちへの思いを、今まで

の自分の生活を振り返りながら考えることができる。そして、友だちへの思いやりややさしさをもった行動とは何か、これからどのような友だち関係を築いていきたいかなど、多様な考えへと展開していく。

#### 再検討後の展開案

(1) お節介について考える。

○ 友だちにされたことで、お節介だと思ったことはないか。

- ・カバンを持ってきてくれた。
- ・落ち込んでいるとき、どうしたのかしつこく聞いてくる。
- ・先生と話すとき何を話したか聞かれる。

(2) 資料「違うんだよ、健司」を読んで、話し合う。

① 耕平が悩みを打ち明けてくれなかったとき、ぼくや健司は、どう思っただろう。

- ・別に普通じゃないか。
- ・堅いこと言うなよ。
- ・適当に合わせておいた方が気楽でいいんだよ。
- ・なんて言ってくれないのか。

② あなたが僕の立場だったら、耕平に対してどうするか。

- ・耕平が言いたくないなら聞かない。
- ・耕平がいやがっても悩み事を聞いてあげる。
- ・お節介と言われてもどうしたのか聞く。

③ あなたは、健司のことをお節介だと思うか。

(3) 今までの自分の生活を振り返り、話し合う。

○ 悩んでいる友だちがいたら、あなたならどうするか。

#### 4. 雨——星野富弘（小学校6年生）

##### 内容

文溪堂『6年生の道徳』<sup>4)</sup>では、星野富弘の次の詩「雨」とその略歴が資料化されている。

じゃがいも畑の横の道を  
その子は 後をつけてきた  
麦畑をすぎ  
墓場の角をまがっても  
桃色のスカートを揺らせ  
心配そうに ついてきた  
「ありがとう」  
家のそばで 私がいうと  
その子は黙って 帰って行った  
くるま椅子で

#### 雨に降られた日のこと

##### 資料作成者によるねらいと展開例

文溪堂『6年生の道徳』教師用指導書に掲載されている展開例は、次のとおりである。

(1) 「雨——星野富弘」の作者について知っていることを話す。(資料への導入を図る。星野さんの作品を見せる。紙面のプロフィール紹介を活用して、手足が不自由なこと、筆を口にくわえて作品を描くことなどを知らせる。)

(2) 「雨—星野富弘」を読んで話し合う。

① 女の子が星野さんの後を心配そうについていったのは、どんな気持ちからか。(心配のあまりついていこうとした女の子に共感させる。「くるま椅子で 雨に降られた日のこと」という言葉で状況を押さえる。)

- ・車椅子で、雨に降られて大変そうだな。
- ・大丈夫かな。心配だからついていこう。
- ・何かしてあげたい。

- ・困ったときは、手助けしよう。
- ・親切にしたいが、何をしたらいいだろう。

② 家までくると黙って帰っていった女の子は、どんな気持ちだったのだろう。(家に無事に着いた星野さんを見て安心し、礼を言われて喜ぶ女の子に共感させる。)

- ・無事に着いてよかった。
- ・もう安心だ。帰ろう。

③ 星野さんがお礼を言っているのは、どんな気持ちからだろう。(女の子の親切は、直接的な行動ではないが、思いやる気持ちが星野さんに十分に伝わっていたことを押さえる。)

- ・おかげで無事に着いたよ。
- ・そばにいてくれてありがとう。
- ・心配してくれてありがとう。
- ・やさしい子だね。

(3) 生活を振り返って話し合う。

○ 相手のことを考えて親切にしたこと、できなかったことはあるか。(障害のある人だけでなく、高齢者、子ども連れの家族、友達など、さまざまな人とかかわりを引き出し、実践意欲につなげる。親切にされてうれしかったことを発表させてから考え

させてもよい。)

- ・駅の切符販売機で、高齢者が困っているのを見たが、何もしなかった。一日じゅう気になって仕方がなかった。声をかければよかった。
- ・妊娠中の女性に席を譲った。
- ・友達の落とし物を、いっしょに探した。

(4) 教師の説話を聞く。

#### 資料の再検討

(1) 短い詩と経歴だけの資料で、星野富弘さんの生き方を理解できるか。

星野富弘さんは、不慮の事故で肩より下がすべて麻痺という過酷な障害を背負う。事故後、その過酷な事実を受け入れるまでの絶望的な感情や何度も生と死をさまよった壮絶な入院生活、支え続けた家族や周りの人たちの悲しみやつらさ、それを感じて悲しむ作者、わずかに動かすことのできる口に筆をくわえて文字をつづり絵を描こうとするまでの苦悩、あきらめ、努力などの思いを、短い資料で子どもたちに理解させることができるか。それは、難しい。

このような場合、道徳の時間だけでなく、学級活動や総合的な学習の時間、読書や読み聞かせの時間などを使い、意図的に作者星野富弘や障害を持つ人を扱うような授業や活動を行い、子どもたちに障害を持った星野さんの「生きる」気持ちを感じさせておく必要がある。そうすることで、この道徳の時間とつながり深く心に響いてくる。

(2) 障害者への思いやり親切と、高齢者や妊婦への思いやり親切は、同じではない。

女の子は、下あごで操作する車椅子に乗った星野さんに会い、後を追う。雨が降ってきても声をかけるわけではなく傘を差し出すわけでもなく、直接的には何もせずに家まで見守る。女の子は星野さんと話をしたかったかもしれないし、気になるけど恥ずかしかったから黙ってついて行ったのかもしれない。本当は車椅子を押したいし、声もかけたかったが、ただ勇気がなくてできなかったのかもしれない。しかし、この女の子の行動は、星野さんが困ったことに遭遇し誰かを必要としたときに助けてあげよう、星野さんが自分でできることには手出しをせず見守ろうという思いやりからの行動だとも考えられる。

高齢者や妊婦などに対しては、見かけたら手助けをすることが相手への思いやり、親切な行動なのだろう。しかし、障害者にとっては、自分でできるこ

とはなるべくしたいと思っているし、手の出し方も難しい。障害者の気持ちを考えることは、見守って必要な時に手助けできるということだろう。星野さん自身が散歩中に女の子を必要としなかったので、女の子も声もかけず手も出さなかった。そんな女の子に、星野さんは素直な気持ちで感謝し「ありがとう」という言葉を言ったのだろう。

指導書の展開は、学習指導要領2—(2)「だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。」という中の「だれ」を、高齢者も妊婦も障害者も一緒にして考えており、だれに対しての親切も全て同じように考えている。高齢者や妊婦などに対しての親切と、自立を目指している障害者への親切とは明らかに違う。資料を基に、障害を持つ人の生き方を尊重し、対等につき合う心とはどういうものかを考えさせるようにしたい。

#### 展開例の再検討1

(1) 体験活動と関連づけての授業にできないか。

以前古谷が担任した学級で、総合的な学習の時間に、ボランティア活動を目的とした老人介護施設のお年寄りと交流する活動があった。その学習の中に、車椅子の介助の仕方や乗っている人の気持ちを考える体験活動があった。子どもたちは、初めて押す車椅子の操作が思い通りにならないほど難しいこと、車椅子に座って自分でタイヤを動かして移動する大変さ、押してもらうことの怖さや不安な気持ちなどを、訪問前の段階で体験し、車椅子での生活の気持ちを考えた。

また、この学級には、入学当初から成長が遅く体が小さいという障害を持った児童Y君がいた。単学級でクラス替えがないことから、子どもたちはY君と6年間一緒に学校生活を過ごしてきた。小さい頃は、階段も一人で上れないY君に、子どもたちは自分から手を貸してあげたり荷物を持ってあげたりした。何をするときにも、子どもたちはY君に声をかけ、やさしく接し、助けてきた。それが日常だった。高学年になり、何でもやってあげることがY君にとっていいことなのかという話合いをし、Y君ができることはなるべくやらせていこう、Y君ができないことをやってあげようということになった。子どもたちは、自然にY君に接し、困ったときに自然に助けてあげることができていた。Y君も自分のことは自分でできるようにしようという気持ちをもつことができ、成長してくれた。



このような体験や経験がある子どもたちだからこそ、この資料を読んだとき、いろいろなことを思い出しながら考えを深めていけると考えた。

(2) 女の子に視点を合わせた展開にできないか。

指導書の展開例の発問では、作者の気持ちを聞いたり女の子の気持ちを聞いたりしている。この短い資料で、内容を理解させるのも難しいのに、二人の気持ちを考えさせたなら、子どもたちを混乱させる。そこで先述した「見守る思いやり」というねらいに迫るため、女の子の気持ちを追っていく展開にした。

#### 再検討後の展開案 1

(1) 親切にされた経験について話し合う。(本時の価値の方向付けをする。)

○ 親切にされたことはあるか。

- ・けがをしたときに、やさしく声をかけてくれ保健室に連れて行ってくれた。
- ・落とした消しゴムを拾ってくれた。
- ・勉強で分からないところを教えてくれた。

(2) 資料「雨——星野富弘」を読んで、話し合う。

(「雨」の作者「星野富弘」について知る。)

- ・星野さんの作品や絵を見せる。
- ・星野さんが絵を描いている写真を見せる。
- ・資料の中のプロフィールを紹介して、手足が不自由なことや筆に口をくわえて作品を描くことなどを知らせる。)

① 星野富弘さんを知っているか。

② 雨の中、車いすに乗った星野さんを見て、女の子はどんなことを考えたのだろう。(見ず知らずの星野さんを心配する女の子に共感させる。電動車椅子に乗っている星野さんは、独りでも自由に動くことができたことを押さえる。)

- ・だいじょうぶかな。
- ・無事帰れるかな。
- ・声をかけるのが恥ずかしい。
- ・どうしたらいいかな。

③ 星野さんに「ありがとう」と言われて、女の子はどんな気持ちだったか。(お礼を言われてうれしい気持ち、何もしていないのにお礼を言われて恥ずかしい気持ちなどを引き出す。)

- ・お礼を言われてうれしい。
- ・気がついていんだ。
- ・お礼を言われるほどのことではないのに。

④ 帰ってから、女の子はどんなことを考えただろうか。(星野さんとの出会いで、相手の様子

を見て親切にすることについて考えを深めた女の子の気持ちを考えられるようにする。)

- ・私には、何ができただろう。
- ・何かできることがあったかもしれない。
- ・困った人がいたら、助けてあげよう。

(3) 今までの自分を振り返り、発表し合う。(障害のある人だけでなく、高齢者、子ども連れの家族、友だちなど、さまざまな人とかかわりを考えさせ、実践意欲につなげるようにする。ワークシートに書くことにより、今までの自分の経験や考えを思い出させ、深めさせる。)

① 相手の気持ちを考えて、親切にしたことがあるか。

- ・老人介護施設訪問で、お年寄りの気持ちを考えて車椅子を押したり話を聞いたり一緒に遊んだりした。
- ・下級生が荷物を重そうに持っていたので、持てあげた。
- ・目の不自由な人に声をかけ、一緒に横断歩道を渡ってあげた。
- ・妊娠している人に席を譲った。

(4) 教師の説話を聞く。(事前の老人介護施設訪問の際のお年寄りと交流体験で出来事で、喜ばれたことやこれから気を付けていきたいことなどを紹介する。)

- ・立つことが困難なお年寄りから「手を貸して欲しい」と言われ、立てるように補助し、輪投げの最中も手を支えてあげた。
- ・お年寄りが望んでいないのに車椅子を押して動かしてしまい、怒られた。これからは、どうしたいかと相手に聞いてから手助けした。

#### 展開例の再検討 2

(1) 資料の提示の仕方を工夫して、詩で表現されている場面を十分イメージできないか。

短い詩の中に、作者の深い思いを読み取らせるには、資料をどのように提示するか、どう資料と出会うかを工夫しなければならない。そこで、詩を3回範読することで、イメージをふくらましやすくしてみる。1回ごとに資料のどの場面を思い浮かべるかを指示し、具体的にイメージさせていく。

(2) 展開の後段の内面的自覚の場面で、完全に資料から離れずに考えさせることはできないか。

星野富弘さんの生き方を学んだ後、展開の後段でその生き方をどう考えどうとらえたかを自分の中で

整理することで、思いやりにもいろいろな形があることを確認させる。さらに、終末の教師の説話で、障害を持つ人とどのように接し、つき合っていけば良いかを具体的に話し伝えることで、今後の自分の生活に生かしたいという意欲につながるようにする。

#### 再検討後の展開案2

(1) 作者星野富弘について知る。(作者星野富弘について、簡単に触れる程度に知っていることを発表させる。)

○ 星野富弘さんを知っているか。

- ・絵や詩を見たことがある。
- ・体が不自由。
- ・手が動かないから、口に筆を加えて絵や詩をかいている。

(2) 「雨——星野富弘」を読んで話し合う。

① 詩を3回読んで、イメージをつかむ。(教師が3回範読する。表現されたイメージを思い浮かべられるように読んで聞かせる。)

1 回目…場面の様子を思い浮かべる。

2 回目…星野さんの経歴を読んだあと、星野さんの様子を思い浮かべる。

3 回目…女の子の様子を思い浮かべる。

② 女の子は、どうして後をついて行ったのか。

- ・車椅子の星野さんが心配だったから。
- ・星野さんが大変そうだったから。
- ・何か手助けをしてあげたかったから。

③ 女の子の行動をどう思うか。(自分の考えをワークシートに書き考えを深めさせてから話し合いをさせる。「何かしてあげられる」という意見に対してどう思うか考えさせ、見守る思いやりもあることに気付かせる。)

- ・星野さんの家の前までついて行っているから思いやりがある。
- ・星野さんを心配しているからやさしい。
- ・女の子はやさしいけど、話しかけて一緒に歩いてあげるとか、傘をさしてあげるとか、何かしてあげられたと思う。

(3) 今までの自分を振り返って考える。(話し合いを通して、考えが変わったことや深まったことをふまえて書かせる。)

○ 今日の話し合いをもとに感じたことを書いてみよう。また、自分の経験を思い出してみよう

- ・障害のある人に出会ったら、様子を見て「何かお手伝いしましょうか」と声をかけてみる。

- ・障害を持つ人の気持ちを考えて行動する。

(4) 教師の説話を聞く。(障害にはいろいろありその障害によって手助けの方法やタイミングなどが違うので、より具体的に障害者とうとうつき合っていけば良いのか、例を話しながら今後の道徳的实践意欲を高める。)

- ・目が不自由な人が、駅のホームから転落し亡くなることがある。危ないときは声をかけたり手を出したりすることも必要である。
- ・オリンピックの年にパラリンピックがあり、障害と向き合い、努力して全力で戦っている。

#### おわりに

以上、4編の読み物資料について検討してきた。

「幸せコアラ」と「違うんだよ、健司」の検討では、資料作成者が示すねらいよりも資料に相応しいねらいがあるのではないかとすることを指摘した。「幸せコアラ」、「立志の人—山川健次郎—」、「雨——星野富弘」の検討では、資料を追加すべきではないかとすることを指摘した。「立志の人—山川健次郎—」の検討では、学習指導要領に示された郷土愛と愛国心の関係の複雑さも指摘した。

こうした検討は、今回の4編に限らず、道徳の時間の読み物資料の選定と利用に際して必要なのではないだろうか。この必要性を論証するためには授業実践記録を蓄積して議論することが必要となる。資料作成者が提示した展開例と今回筆者らが提示した展開例による実際の授業の比較が必要となるだろう。今後の研究課題としたい。

特に今回3編を取り上げた文部科学省の『小学校道徳読み物資料集』と『中学校道徳読み物資料集』は、今後、学校現場で広く利用されていくものとみられる。今回の検討手法を同書掲載の他の資料に適用して研究を続ける必要がある。

#### 参考文献

- 1) 文部科学省『小学校道徳読み物資料集』文溪堂、2011年。
- 2) 星亮一『明治を生きた会津人 山川健次郎の生涯』ちくま文庫、2007年。
- 3) 文部科学省『中学校道徳読み物資料集』廣済堂あかつき、2012年。
- 4) 真仁田昭・長谷徹『6年生の道徳』文溪堂、2012年。